

年月日：1972年3月24日
用務：日本の人口問題と開発問題について
連絡機関：Asian Statistical Training Institute

ハワイ東西センター人口研究所国際諮問委員会

標記の委員会 (International Advisory Committee Meeting of the East-West Center Population Institute, Hawaii) の第4回目に当たる1972年会議が、1月4日から6日まで、ハワイ・ホノルル市の東西センター (ジェファーソンホール) で開催された。

出席者は、委員長の Philip M. Hauser のほか、C. Chandrasekaran (国連人口部)、A. J. Coale (プリンストン大学人口研究所長)、M. B. Concépcion (フィリピン大学人口研究所)、E. Hyock Kwon (ソウル国立大学医学部長)、Norma McArthur (オーストラリア国立大学)、Visid Prachuabmoh (タイ・チュロンコーン大学人口研究所長)、Douglas S. Yamamura (ハワイ大学) の諸氏と、黒田俊夫 (人口問題研究所人口移動部長) を含む9名の委員、それに東西センター人口研究所 Paul Demeny 所長その他数名の事務局員が参加した。

会議は、まず Demeny 所長から過去1年間における研究所の教育、訓練、研究の活動ならびにスタッフの現況についての詳細な報告が行なわれた。また、現在研究中の project の主要なものについてはそれぞれ担当者より詳細に研究の進捗状況についての報告が行なわれ、委員との間に質疑応答が行なわれた。

1月6日午前の session において、国際諮問委員会第4回目年次会議の“観察と勧告” (Observations and Recommendations) 案を検討し、これを決議、提出して、会議を終了した。とくに、委員会はこの人口研究所の大学院教育ならびにスタッフの研究活動における著しい進歩、発展に敬意を表するとともに、とくに開発途上国における人口専門家の需要の増加の観点から、この分野の教育訓練に対するこの研究所のいっそうの活動を期待した。ただ、セミナーその他短期のコースの訓練生については、教育程度・専門的活動経歴等についての同質性を極力保持することが必要であることが指摘された。(黒田俊夫記)

ODA (人口研究機関連合) 作業部会

1972年1月10日から13日までの4日間にわたって、Organization of Demographic Associates の workshop が、ホンコンのヒルトンホテルで開催され、本研究所の黒田俊夫 (人口移動部長)、小林和正 (資料課長、E C A F E に出向中)、岡崎陽一 (人口移動部移動科長) の3技官がこれに出席した。

初日である1月10日の午前と最終日の13日の午前の2回は plenary session に当てられ、それ以外は Labor Force, Internal Migration and Urbanization, Family and Household Structure の三つの作業部会のそれぞれ独立の session が行なわれた。ODA の Chairman である Prof. Yon 欠席のため、総会の Chairman は、ODA Vice-chairman の M. B. Concépcion が代行した。

参加者は、ビザの関係で参加できなかった台湾の2名を除き24名に達した。Labor Force 部会は9名の参加者で、Chairman は P. M. Hauser, Rapporteur は E. Kitagawa であった。Internal Migration and Urbanization 部会の参加者は5名、Chairman は黒田俊夫、Rapporteur は Elvira M. Pascual、それから Family and Household Structure 部会の参加者は10名で、Chairman は G. T. Castillo, Rapporteur は W. Flieger であった。日本から出席の小林課長は Family and Household Structure の部会に、また岡崎科長は Labor Force の部会のメンバーとして参加した。

作業部会の活動計画において、各部会にほぼ共通な点は、本年7月1日を締切りとして各部会ごとに Country statement を作成、そのあと部会ごとに独自の会合を開催して検討を加え、12月下旬の総会にてそれぞれ最終報告書を提出することである。

Labor Force 部会で提案されている Hauser の労働力の新アプローチを各国の field survey で検討することが審議された。Urbanization については、「人口移動・都市化」部会のメンバーと Professors Hauser, Lee, Stephey が参加して subcommittee を再編成することが総会で決定された。

(黒田俊夫記)

エカフェ主催 社会開発の人口側面に関する地域セミナー

エカフェ主催の標記のセミナー (Regional Seminar on Population Aspects of Social Development) が1972年1月11日から20日に至る10日間、バンコクで開催され、筆者(岡崎)は討論者の1人としてこれに参加する機会をえた。このセミナーは1972年11月に東京で開催予定の第2回アジア人口会議 (Second Asian Population Conference) に基礎材料を準備する目的で計画されたセミナーの一つで、これに先立ち、1971年1月に「人口と人的資源問題の関係に関するセミナー」(Interrelation between Population and Manpower Problems) および同年8月に「農村および都市人口増加のエコロジカルな意義に関するセミナー」(Ecological Implications of Rural and Urban Population Growth) が開催されている。

今回のセミナーの目的は、エカフェ地域におけるよりいっそう均衡のとれた開発計画の推進、住民の中からもり上がりつつある要望に対する国の対応を援助する点にある。そのために、人口学的要因と社会的要因(教育、健康、栄養、社会福祉および社会保障、婦人の地位、住宅、人的資源その他)の相互関係を逐一検討し、各国のもつ情報と経験、とくに人口傾向、社会変動計画立案に必要なデータの交換の機会が提供されたものである。

出席者は、エカフェ所属の17か国から25名の参加者を中心に、オーストラリア、ホンコン、インド、日本、シンガポールおよびアメリカ合衆国から11名の専門家がコンサルタント、討論者として参加したほか、国連関係機関から専門家および代表者が参加した。

討論材料として、エカフェ事務局が準備したバックグラウンド・ペーパー1編 (Population Aspects of Social Development) と13編の専門別ペーパーが配布された。その他、各国の参加者による発表 (Country statement) が行なわれた。

日程としては、事務総長 (Mr. U. Nyun) による開会の辞ののち、次のとおり役員が選出された。

- 議長 Mrs. Felisa R. Baretto (フィリピン)
副議長 Mr. Vong Tang Seng (クメール共和国)
Mr. K. D. Gangrade (インド)
書記 Miss Dorothy Z. Fernandez (マレーシア)

原則として午前中、2つずつの項目について討論者を中心とする一般討論が行なわれ、午後それぞれについての詳細な討論が行なわれる方針が決定され、以下の日程表によってセミナーが行なわれた。

- I 緒論 (Introduction)
- II 人口変動、配偶関係および家族 (Population change, conjugal status and family)
- III 人口変動、世帯および住宅開発 (Population change, households and housing development)
- IV 人口変動、食糧供給および栄養 (Population change, food supply and nutrition)
- V 人口変動および健康開発 (Population change and health development)
- VI 人口変動および教育開発 (Population change and educational development)
- VII 人口変動および社会的移動 (Population change and social mobility)